

2022年7月5日掲載 カーゴニュース

DTホールディングス／22年3月期

増収増益、業務内製化など改善が奏功

ディー・ティー・ホールディングス（DTホールディングス、本社・山形市、武藤幸規社長）の2022年3月期の連結業績は売上高1068億660

（約7・4倍）と増収増益だった。物流関連事業をみると、主要子会社である第一貨物の貨物自動車運送事業は新規および既存顧客からの拡販など積極的な営業活動に取り組んだことが奏功し、営業収入が前期を大きく上回った。また、コスト構造の改善を図り、外部への業務委託を

内製化する取り組みや社員の採用競争力の強化を推進するなど、外注費などの削減に徹底して取り組んだことの効果が表れた。一方、軽油価格が前年度から大幅に上昇し、高止まりが続いたことが収支を圧迫した。ロジスティクス事業は、巣ごもり需要が大口顧客の業績に好影響を及ぼしたことを受け、取扱量が好調に推移したことにより、

売上高は前期を上回った。物流関連の全事業業績は売上高727億3500万円（3・0%増）、経常利益7億8100万円（約7・2倍）、当期純利益122億1000万円（約11・6倍）となった。自動車販売事業は、主力のトラック・バス分野では半導体などの供給不足によるメーカーの大幅減産の影響を受け、新車販

売台数が減少。一方、部品部門と整備部門は営業活動の質と量の向上が奏功し、前年を上回る業績を確保した。自動車販売などの全事業業績は売上高262億2200万円（1・4%減）、経常利益2億8000万円（10・1%減）、当期純利益1億4900万円（25・7%減）となった。